

題材 「私たちの生活と食糧生産」 ○○時間中の第○時

(1) 学習のねらい

水稻の品種について前時に語り合った子どもたちが、一風変わった野菜の品種である信州伝統野菜に触れることを通して、一種の作物に複数の品種が存在する利点が生産の容易さや味のみでないことに気づき、農業の伝統性や地域同士の競争について考えることができる。

(2) 本時の学習材

信州伝統野菜

- 子どもたちが水稻の品種について考え、その利点が生産の補助にあると感じたところで学習材を提示する。
- 本学習材は、長野県の伝統野菜認定制度に登録された一風変わった野菜である。これらは文化の保存のために認定されており、単純な利益性の追求とは一歩離れたところにある。これらの品種がなぜ保存されているのかを考えることで、今まで気づけていない農業の性質に気付くことが期待できる。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
導入 課題把握	0 復習	○育てやすい ・味がよい ・ナスでかい！ ・蕪みたい。 ・曲がってる	20'	○水稻の品種の差を再度確認する。 ○伝統野菜と普通の野菜、二種類を見比べてその差を指摘する。
	1 信州伝統野菜の特徴を考える			
	2 本時の課題を確認する	学習問題 育てるのが大変な伝統野菜を、なぜ作っているのだろう？	5'	学習材 信州伝統野菜 ・ていざなすは大きさがわからない写真から比較できる写真に変化させる。
展開	3 どんな利点があるのか考える	・料理ごとに相性のいい品種があるからかな ・観光のためじゃない？ ・なくすのももったいないから ○伝統だから残したいんじゃないかな ○ほかのところに作れないから	15'	○生産者の言葉や県庁の担当者の方の言葉を伝える。
終末	4 考えを整理し、次につなげる	○売るためだけに作っているわけじゃないんだね ・おもしろい野菜がたくさんあるとわかった。 ・食べてみたい。	5'	○ワークシートを配布し、一人で考える時間を取る。 ・どんなことを考えたか、記入をし、共有する。 評価 ワークシート：伝統野菜や野菜の品種について考察ができたかをワークシートを用いて判断する。